

シンポジウム オペラ・アリアの実演付き

バロック・オペラとイタリア叙事詩

タツソ『解放されたエルサレム』と芸術作品



2025年3月23日(日)13:00~17:40(開場:12:30)
東京藝術大学上野キャンパス音楽学部5号館109番教室

事前登録制 入場無料 (座席数に限りがありますので先着順となります)

参加希望者は3月21日(金)までに下記URLまたは右下のQRコードよりご登録

https://docs.google.com/forms/d/1y9gxDIprLMemu0hV_pwGkF17NHyxIqMx80dSCrxgv-w/edit

または下記問い合わせ先メールアドレスに申込みをお願いします。

13:00 開会挨拶 趣旨説明

発表1 イタリアとフランスのオペラ台本における『解放されたエルサレム』

大崎さやの(東京藝術大学)

発表2 フランスにおける《アルミード》の変容 —リュリからグルックへ

森佳子(早稲田大学)

発表3 18世紀ロシアにおける『解放されたエルサレム』にもとづくオペラの上演

—宮廷劇場と農奴劇場を中心に

森本頼子(名古屋音楽大学)

発表4 ロンドンにおけるイタリア・オペラ黎明期に上演されたヘンデル《リナルド》の特徴

吉江秀和(杏林大学)

質疑応答 休憩

15:10 演奏1

発表5 18世紀ドイツ諸都市における『解放されたエルサレム』にもとづくオペラ

—C.H.グラウン《アルミーダ》を中心として

大河内文恵(東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校)

発表6 魔女オペラと《オルランド・フリオーズ》

辻昌宏(明治大学)

発表7 『解放されたエルサレム』の絵画化 —17世紀イタリアの事例から

新保淳乃(武蔵大学)

演奏2 横山義志(学習院大学、SPAC-静岡県舞台芸術センター)、上西明子(東京芸術大学)によるコメント 質疑応答

閉会挨拶

♪演奏♪

枝 紀花(ソプラノ、修士2年)

小泉莉穂(ソプラノ、修士1年)

寺内詩織(バロックヴァイオリン、別科1年)

前川陽香(チェンバロ、修士2年)

お問い合わせ: [osaki.sayano\[AT\]ms.geidai.ac.jp](mailto:osaki.sayano@ms.geidai.ac.jp) ([AT]を@に置き換えてください)

主催:科学研究費基盤(B)「啓蒙期ヨーロッパの芸術における「他者」の総合的研究」(研究課題番号:24K00051)

協力:東京芸術大学音楽学部 古楽研究室

後援:早稲田大学総合研究機構オペラ/音楽劇研究所 西洋比較演劇研究会 日本18世紀学会

科研費
KAKENHI



〈開催概要〉

詩人トルクアート・タッソ(Torquato Tasso)の叙事詩『解放されたエルサレム』(1581年刊行)は、イタリア文学を代表する傑作のひとつです。カトリック改革の時代に書かれたこの作品は、第一回十字軍が異教徒からエルサレムを奪還するという内容で、出版当初から高く評価されました。その後も本作を原作とする数多くの音楽作品や美術作品が生み出され、ますますその人気は高まっています。なかでも十字軍の勇者リナルドと異教徒の魔女アルミーダの恋物語は、さまざまな芸術作品の題材となりました。

今回開催するシンポジウムでは、イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、ロシアにおける『解放されたエルサレム』を基としたオペラの広がり进行分析すると同時に、美術作品に見られる叙事詩の影響を考察していきます。また、東京藝術大学音楽学部古楽研究室の協力により、オペラ・アリアの実演も行います。本催しが芸術分野における『解放されたエルサレム』現象」ともいえる熱狂(フィーバー)の解明に一石を投じられれば幸いです。

企画・構成:大崎さやの

〈発表要旨〉

大崎さやの:イタリアとフランスのオペラ台本における『解放されたエルサレム』

『解放されたエルサレム』原作のオペラは、17世紀にイタリアで作られ始める。本発表ではヴェネツィアで初演されたベネデット・フェッラーリのイタリア語台本『アルミーダ』(1639年)を皮切りに、アルミーダを扱った代表的なフランス・オペラとして知られる、キノー台本『アルミード』(1686年)等、17世紀から18世紀にかけて作られた『解放されたエルサレム』原作の主要なオペラ台本を取り上げ、各作品の特徴を考察していく。

森佳子:フランスにおける《アルミード》の変容 —リュリからグルックへ

リュリの《アルミード》(1686)から約90年後、グルックの《アルミード》(1776)がパリ・オペラ座で初演された。1773年にパリ入りしたグルックは、1774年の《オリドのイフィジューネ》を皮切りにフランス語のオペラを発表していったが、《アルミード》もその一つである。グルックの他作品と比較した本作の特徴としては、ヒロインが必ずしも「善良で純粋な女性」ではなく、感情表現もより具体的である点が挙げられる。ただしグルックは、リュリ版で使われたキノーの台本をほぼそのまま使用し、過去のフランス・オペラへの敬意も忘れてはいない。本発表ではまず、グルックがどのような意図でこの改作に取り組んだのかを考察し、アルミードの「キャラクター性」を表す音楽的要素について検証していきたい。

森本頼子:18世紀ロシアにおける『解放されたエルサレム』にもとづくオペラの上演 —宮廷劇場と農奴劇場を中心に

オペラ文化の黎明期にあった18世紀ロシアでは、ロシア内外のオペラが種々の劇場で上演された。『解放されたエルサレム』にもとづくオペラとしては、宮廷劇場でのイタリアのオペラ・セリア(サルティの《アルミーダとリナルド》他)や、シェレメーチェフ家の農奴劇場でのフランスのトラジエディ・リリック(サッキーニの《ルノー》他)の上演例があった。これらの上演がロシア・オペラ史においてどのような意味をもったかを考察する。

吉江秀和:ロンドンにおけるイタリア・オペラ黎明期に上演されたヘンデル《リナルド》の特徴

ヘンデルがロンドンで最初に上演したイタリア・オペラの《リナルド》でシナリオを手掛けたクイーンズ劇場のマネージャーであるアーロン・ヒルは、タッソの『解放されたエルサレム』にはいないアルミレーナを登場させるなど、原作にかなり手を加えている。本発表では、ロンドンでまさに上演された始めたイタリア・オペラのありさまやヒルがこのオペラ作品で目指したもの、更には当時のイギリスの政治的状況を確認しながら、《リナルド》の特徴を明らかにしていく。

大河内文恵:18世紀ドイツ諸都市における『解放されたエルサレム』にもとづくオペラ —C.H.グラウン《アルミーダ》を中心として

ドイツ諸都市においては、1714年のインスブルックを始めとして、18世紀および19世紀初頭にかけて幾度も『解放されたエルサレム』にもとづくオペラが作られた。上演地はベルリンとウィーンが多く、作曲は宮廷楽長が担当することが多い。これらの作品のうち、最初に宮廷楽長が作曲した例としてグラウンの《アルミーダ》を取り上げ、他の作品とも比較することにより、ドイツ諸都市における『解放されたエルサレム』の主題がどのように受容されていたかを探る。

辻昌宏:魔女オペラと《オルランド・フリオーゾ》

十字軍の騎士を誘惑する魔女が出てくるオペラは17世紀から存在したが、18世紀にもヴィヴァルディ、ヘンデルらによって書かれ続ける。原作となったのはアリオストの『狂えるオルランド』とタッソの『解放されたエルサレム』という長編騎士物語詩で、そこからいくつかのエピソードを選んでオペラ化したものが多い。本報告では、魔女ものオペラの背景と、ヴィヴァルディの《オルランド・フリオーゾ》の独自性について指摘したい。

新保淳乃:『解放されたエルサレム』の絵画化 —17世紀イタリアの事例から

聖地奪還を目指す十字軍とサラセン軍の戦いを軸に展開するタッソの『解放されたエルサレム』は多岐にわたる芸術形態に翻案された。本報告では17世紀イタリア地域における本叙事詩の絵画化に着目する。古典主義絵画において特に頻りに図像化された「エルミニアと羊飼ひ」と「タンクレディとエルミニア」の主題を取り上げ、異なる土地・宗教・ジェンダー役割を越境する男女の悲喜劇がどのように図像化されたかを考察する。

コメンテーター:上西明子 横山義志

〈演奏予定曲目〉

リュリ《アルミード》第2幕第5場 アルミードのエール “Enfin, il est en ma puissance”
グルック《アルミード》第2幕第5場 アルミードのエール “Enfin, il est en ma puissance”
ヘンデル《リナルド》第2幕第4場 アルミレーナのアリア “Lascia ch'io pianga” ほか
(曲目、演奏順など、詳しくは当日発表となります)



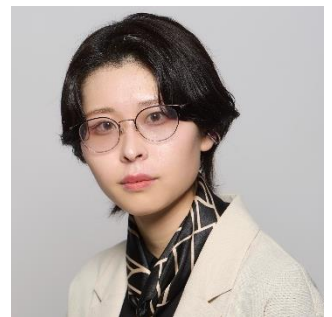
枝 紀花(ソプラノ)



小泉莉穂(ソプラノ)



寺内詩織(バロックヴァイオリン)



前川陽香(チェンバロ)

東京藝術大学 上野キャンパス 音楽学部5号館1階 109番教室

<アクセス> JR上野駅(公園口)・鶯谷駅より 下車徒歩10分

地下鉄銀座線・日比谷線上野駅 下車徒歩15分

千代田線・根津駅 下車徒歩約10分

京成上野駅 下車徒歩15分

都営バス 上26系統(亀戸←→上野公園)谷中バス停 下車徒歩約3分

※アクセスマップ <https://www.geidai.ac.jp/access/ueno>

